

映画「ワイルド・スピード」に端を発するスポコンブームから、ヘラフラッシュ、スタンスへとつながる一連の流れのなかで高まったのが、フォージドホイールによるマルチピース化だ。いわゆるアメ鍛と呼ばれる削り出し鍛造による組み付けホイールのこと、これまで日本国内にはほとんど存在しないギミックを武器に、瞬く間に存在感を高めていった。それが、ディスクを逆反りするコンケイブデザインだった。

そんな流れに対し、アメリカでマーケティングをするTANABE USAとミートリングを繰り返すなかで、USスタイル×ジャパンメイドで新たなモノが作れないか。つまり、鍛造でコンケイブデザインができないかとスタートしたのが、「エグゼキューター」だった。

しかし、鍛造でコンケイブディスクを作ることは簡単ではなかった。アメリカでつくるコンケイブデザインは、削り出し鍛造のみ。それを鍛造でやるには、超えるべきことは数々あった。まずはこれまで製造していたディスクに対し、コンケイブディスクの厚みがまるで違うこと。鋳物を流し込むにも落差が大きく高さがあるため、品質を維持するのは難しかったのだ。なにより当時の製造設備では限界を超えるため、鍛造や加工工程など問題が山積みで、その開発は困難かを極めた。

そんな状況に対し、TANABE USAと企画部の熱意を技術や設計にぶつけ続けるなかで、ようやく誕生したのがエグゼキューターだった。

エグゼキューター緊急集会

エスエスアール・エグゼキューター

SSR EXECUTOR

SSRのグローバル戦略として投入されたエグゼキューター。コンケイブデザインを入れ込むことで立体感とエレガントさを両立するハイブランドとして君臨する。そのエグゼキューターの個性的なホイールたちを深掘りしていく。ようこそエグゼキューターの世界へ。

